

サステナブルな 防災・減災とは？

矢守 克也

京都大学防災研究所

巨大災害研究センター 教授・センター長

高知県黒潮町



今年で20回目となる、黒潮町防災訓練で開催された「シヤブアート展」

「対策」ではなく
「思想」を創る

住民と900回のコミュニケーション

●高知県黒潮町

巨大想定：災害前の災害



2つの短歌と巨大想定



- 高知県黒潮町に暮らす秋澤香代子さん(80歳代)
- 未災地。未だ来ぬ災い(大津波)を前に、すでに、避難を「あきらめ」(避難放棄)、町での暮らしを「あきらめ」(震前過疎)る雰囲気が一。

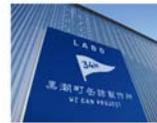
しかし...黒潮町の底力①

「私たちの町には美術館はありません、美しい砂浜が美術館です」

「私たちの町には防潮堤は(十分には)ありません、缶詰が、避難カルテが、防潮堤です」



ツナグ
×
デキル
WE CAN PROJECT



私たちは、
この町の元気の源と未来を
つくるために生まれました。

しかし...黒潮町の底力②

缶詰:一石何鳥?:
備蓄物資(熟成期間)、雇用
創出、地場産業振興(カツオ、
トマト、きのこ...)、流通拠点
(駐車場、空きスペース)...



しかし...黒潮町の底力③

「対策でなく思想を作る」

起きてしまった災害からの復興
対策も、今後起こる災害に対す
る防災対策も、突き詰めると、災
害復興や防災に関する狭い意
味の「対策」の領域を超える。

それは、地域に暮らす人びとが、
いかに生き生きと力強く生活で
けるのかという問題、つまり、地
域づくりの問題に帰着する。



個別避難訓練:タイムトライアル



人口:900人
農業、漁業、海
水浴場

高知県四万十町興津地区

高知県
興津小学校

南海トラフ地震
今30年の発生確率=60%以上
津波の最大高さ20メートル以上
地震から早くて20分くらいで来る



子どもの防災マップと大人の対応



2007年防災マップ



橋の補修



2008年防災マップ



海拔の表示

ポスト3/11＝巨大想定下の興津地区

- 避難施設は、ある意味十分整備済、しかし、「逃げよう」という意識は・・・???
- 3つの「何とかしたい」リアクション
 - あきらめ...もうダメだ、黙ってお迎えを
 - 油断・慢心...来るわけない、昭和のときだって...
 - お任せ...「もっと高いタワーを」、「先生、よろしくお願います」



「シンサイミライ学校」(「まなぼうBOSAI」)
(NHK-Eテレのウェブサイトで)

まとめ:いくつかの:「融合」

1. 自然科学と人間科学の融合(「敵を知り、己を知る」)
2. ソフト対策とハード対策の融合
3. 当事者(地域の方々:自ら提案・試行)と第三者(私たち:分析・提案)との融合＝アクションリサーチ
4. 地域社会・学校・自治体・外部者(研究者など)の融合
5. 防災とその他の社会的課題(健康・福祉、世代間ギャップ...etc)との融合

